



たむらの稲作情報 —第1号—

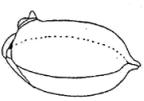
令和8年2月27日発行

J A福島さくらたむら統括センター・田村農業普及所

〈 問合せ先：0247-62-3113 〉

3~4月の気温は平年よりも高くなる見込みです！
 浸種中の出芽、苗やけ、もみ枯れ細菌病などが発生しやすくなるため、
 種子消毒や温度管理を徹底し、健苗を育成しましょう！

育苗中の
 温度管理
 に注意！

作業工程	温度等		管理のポイント
種子の予措 	水温は <u>10~15℃</u> 、 積算水温は <u>100℃</u> を目 安に ※ひとめぼれなど、休 眠が深い品種は <u>120℃</u> を目安		<input type="checkbox"/> 購入種子であっても、未消毒種子は塩水選を行う
			<input type="checkbox"/> <u>未消毒種子は必ず種子消毒をする</u> (例：テクリードCフロアブル)
			<input type="checkbox"/> 粃が酸欠にならないよう、浸漬後3日目から、1~2日おきに水を交換する
			<input type="checkbox"/> 浸種の水温は15℃以上の <u>高温にならないよう、設置場所を工夫する</u> (<u>高温時は、途中で出芽していないか確認すること！</u>)
催芽処理 	<u>28℃</u>		<input type="checkbox"/> <u>催芽処理は28℃</u> で行う(高温で細菌病が発生増加するので注意)
			<input type="checkbox"/> 育苗器の設定温度に頼らず、温度計を別に設置し確認する
播種~出芽 	加温 〈育苗器〉	無加温 〈ハウス〉	<input type="checkbox"/> 苗立枯病、もみ枯細菌病等の対策のため、 <u>播種作業の際、薬剤防除をする</u> (次ページ参照)
	2~3 昼夜	5~7日程 度	<input type="checkbox"/> (加温出芽) <u>育苗器の温度は、28℃</u> に設定する <input type="checkbox"/> (加温出芽) 苗出し後、2~3日は遮光する(白化苗の防止)。
	昼 <u>28℃</u> 夜 <u>28℃</u>	昼 <u>28℃</u> 夜 <u>12~15℃</u>	<input type="checkbox"/> (無加温出芽) 被覆資材の特徴を把握し、被覆資材の中の温度が <u>12℃以上 28℃以下</u> になるよう温度計で確認する。 <input type="checkbox"/> (共通) 被覆資材をとった際、 <u>覆土が持ち上がっている場合は、すぐにかん水せず、覆土が白く乾いたらほうき等で土を落とし、もみが露出した部分に覆土すること。</u> (過湿にしないよう注意!)
	・緑化期(~緑化・草丈 2cm程度) 昼 <u>25℃</u> 、夜 <u>12~15℃</u> ・硬化期(緑化~2葉 期) 昼 <u>20℃</u> 、夜 <u>10~15℃</u>		<input type="checkbox"/> ハウス内に、 <u>温度計を育苗箱と同じ高さに設置して</u> 、こまめに検温し、サイドの開閉等で温度管理する(<u>緑化期の苗焼けに注意!</u>) <input type="checkbox"/> <u>かん水は、朝に実施し</u> 、追加のかん水は、土の乾き具合により判断する(病害の発生や、根張りを弱くし徒長苗の原因になるので <u>夕方のかん水は行わない</u> こと)。 <input type="checkbox"/> <u>30℃以上の高温でもみ枯細菌病</u> などが発生、 <u>5℃以下の低温でムレ苗</u> 等が発生しやすくなるので、注意する <input type="checkbox"/> もみ枯細菌病や苗立枯細菌病はかん水により広がるので、 <u>疑わしい症状が確認された苗箱は直ちに隔離・廃棄</u> する

育苗中の主な病害と農薬について

◎2月27日時点の農薬登録情報より記載しています。
農薬の使用時にラベル等で使用方法を確認してください。

	種類・特徴	農薬(使用方法、使用時期)
苗立枯病	【ピシウム菌】(ムレ苗) 特徴:葉が萎れ、下葉が褐変して、やがて枯死する。地際部や表面にカビの発生は見られない。緑化期以降の低温で発生しやすい。	ナエファイン粉剤(育苗箱土壌に均一に混和、は種前) ナエファインフロアブル(土壌灌注、は種時) タチガレエースM粉剤(育苗箱土壌に均一に混和、は種前) タチガレエースM液剤(土壌灌注、は種時)
	【フザリウム菌】 特徴: 籾の周囲や地際部に白色～淡紅色のカビが見られる。	ナエファイン粉剤(育苗箱土壌に均一に混和、は種前) ナエファインフロアブル(土壌灌注、は種時) タチガレエースM粉剤(育苗箱土壌に均一に混和、は種前) タチガレエースM液剤(土壌灌注、は種時)
	【リゾープス菌】 特徴: 苗箱の表面が白色や灰色のカビで覆われる。	ナエファイン粉剤(育苗箱土壌に均一に混和、は種前) ナエファインフロアブル(土壌灌注、は種時)
もみ枯細菌病、苗立枯細菌病	種子伝染性の細菌病で、坪状に葉が黄化し、枯れる。(もみ枯細菌病は苗の基部が腐敗) ※30℃以上の高温で発生しやすい	カスミン粒剤(育苗培土に均一に混和、は種前) カスミン液剤(は種した種籾の上から均一に散布、覆土前) ※2 薬剤とも予防効果のみ。細菌病はかん水時に広がるので、 <u>疑わしい症状の苗箱は、直ちに隔離・廃棄すること!</u>

高温対策のため、土づくりをしましょう!

高温年などの異常気象に強い稲づくりのためには、毎年の土づくりが重要です!

- ◇家畜ふん堆肥や稲わらのすき込みによる土づくりを行いましょう
- ◇登熟向上や秋落ちの予防にはケイ酸や鉄資材の施用が有効です

(散布の目安量) ・牛ふん堆肥～1トン/10a

・鶏ふんペレット～30 kg/10a

(※窒素成分の有効化率が高いので、多すぎると過繁茂になるので注意)

・ケイカル(ケイ酸資材)～60～150 kg/10a

・田んぼマスター(含鉄資材)～60～100 kg/10a



～春先の農作業事故に注意!～ 【春の農作業安全運動推進運動実施中(3/1～5/31)】

トラクターで作業する際は、ほ場内や周辺の傾斜、凸凹などをあらかじめ確認して転倒を予防し、シートベルトやヘルメット等を装着して作業しましょう。